

岐阜県立東濃実業高等学校における特別活動の実践と意義 —生徒会活動における文化祭の企画と運営—

工藤 昌義

要 約

本稿は、岐阜県立東濃実業高等学校において生徒会活動の一環として開催された文化祭を事例として、高等学校における特別活動の実践と意義について論じたものである。やや具体的に述べると、2021（令和3）年度、同校では、いわゆる「コロナ禍」によって様々な制約を受けるなかで、生徒会執行部が中心となって、全校生徒の要求や希望をアンケートによって把握し、より良い学校生活の実現に向けて文化祭の企画と運営に取り組んだ。こうした文化祭の内容を概観したうえで、そこに平和で民主的な社会の形成者の育成を期する特別活動の理念がいかなるかたちで具現化されていたのかについて論じた。

キーワード

岐阜県立東濃実業高等学校 特別活動 生徒会活動 文化祭

はじめに

現行の『高等学校学習指導要領』（2018（平成30）年告示）の特別活動にかかる解説編を見ると、生徒会活動の目標とは、異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、集団や社会の形成者としての資質・能力を育成することであると説明されている¹⁾。ここでいう集団や社会の形成者とは、素直に読めば、日本国憲法の理念を前提として教育基本法が掲げる平和で民主的な社会の形成者ということになる。全国の学校教育現場では、この趣旨に基づいて日々の特別活動の実践がなされている。

このことを踏まえ、本稿では、筆者が所属する岐阜県立東濃実業高等学校（以下、

東濃実業高校）において、2021（令和3）年度、いわゆる「コロナ禍」のなかで生徒会活動の一環として取り組まれた文化祭の企画と運営の事例について報告し、上述した平和で民主的な社会の形成者を育成するうえで、学校生活をより良いものにしようとする生徒たちの意欲を尊重し、支援することが重要であることを論じる。

1. 東濃実業高校の生徒会活動の概要

（1）東濃実業高校の概要

1921年に開設された東濃実業高校は、現在、「地域の未来を創出する人材の育成」を謳い、他者とのかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を備えるとともに、確かな教養に裏付けされた専門的知識・技術を有し、地域の未来を見据えて主体的

に学び続ける人材の育成を教育目標としている²⁾。

また、こうした教育目標を実現するための校訓として①望ましい勤労観・職業観、自己の在り方・生き方・価値観を見いだす「勤労」、②社会の一員としての自覚を深め、自らの行動に責任をもつ「責任」、③今までの慣習にとらわれず、意欲的に挑む姿勢やチャレンジ精神を育成する「進取」、④基礎的・基本的な知識・技能、および思考力・判断力・表現力を身につけ、主体的に課題解決する力をつける「創意」の四つを掲げている。さらに、生徒たちの具体的な生活実践上の指針として「さわやかなあいさつを!」「授業に打ち込もう!めざそう

資格取得!」「部活動に積極的参加!」「端正な身だしなみを!」「環境美化に努めよう!」の五つを打ち出してもいる³⁾。

(2) 生徒会の組織体制と主な活動

生徒会の組織体制を示した図1に見られるように、東濃実業高校には、全校レベルの組織として生徒総会、執行部、生徒議会、常任委員会の四つが置かれている。

まず、生徒総会は、全校生徒577名(2022年12月現在)によって構成される最高議決機関であり、毎年度5月に開催される。

次に、執行部は、生徒会長1名、副会長2名、書記2名、会計2名によって構成され、

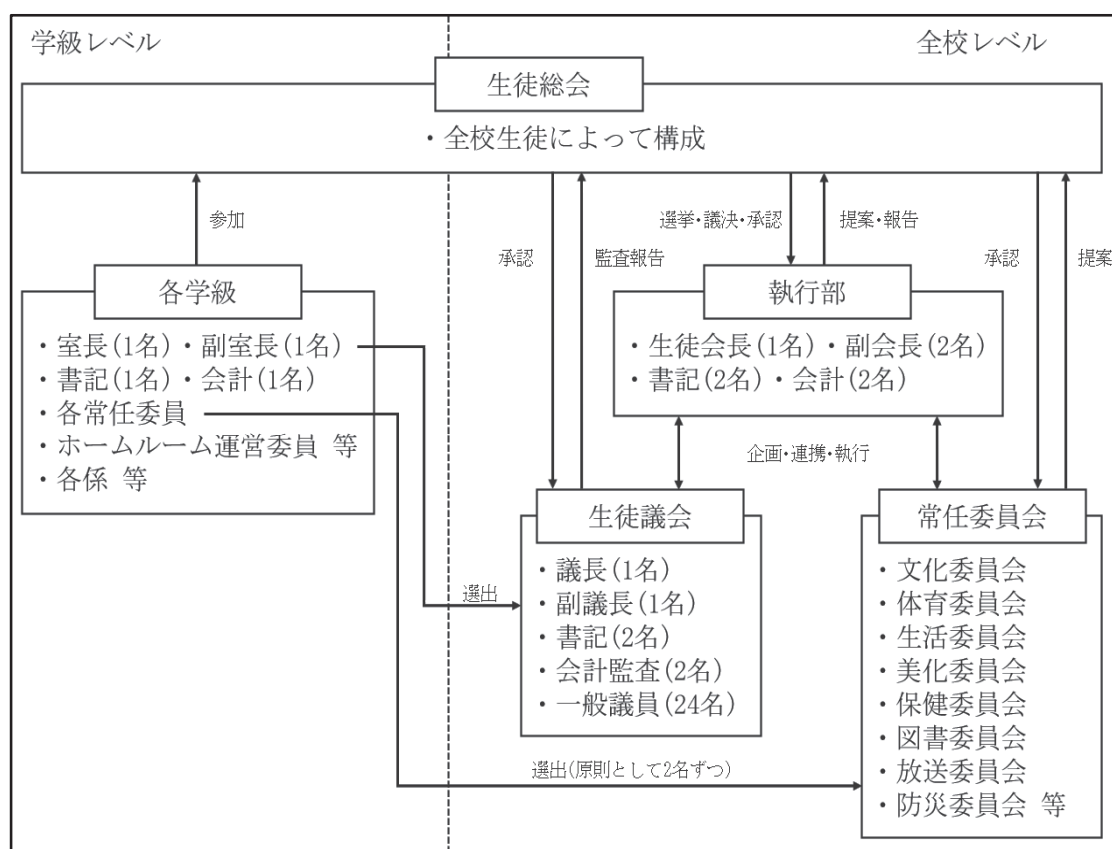


図1：東濃実業高校生徒会の組織体制

全校生徒による生徒会役員選挙によって選出される。任期は、前期（4月～9月）と後期（10月～3月）の半年間である。主な任務は、生徒会室において、後述する生徒議会および常任委員会とともに生徒会活動を企画、執行することである。

また、生徒議会は、各学級において任意で選ばれた室長（1名）と副室長（1名）が集合するもので、その内部に議長（1名）、副議長（1名）、書記（2名）、会計監査（2名）および一般議員（24名）といった役職を置くものである。議長の任期は半年間で、その他の役職は生徒会活動全体の計画や目標について議決し、生徒総会に諮るとともに、執行部および常任委員会とともに生徒会活動の企画と運営に取り組む。

さらに常任委員会は、文化委員会・体育委員会・生活委員会など、それぞれの分野を担当する委員会の総称である。それぞれの委員会には各学級で選出された原則2名が集まり、委員長（1名）、副委員長（1名）、書記（原則1名）、一般委員（27名）で構成される。生徒議会と同様に任期は原則半年間で、担当分野の活動の目標や計画を策定して生徒総会に提案し、執行部および生徒議会と連携して実行する。

以上に概観した組織体制のもとで、東濃実業高校の生徒会活動は、執行部・生徒議会・常任委員会が企画したことを、生徒総会の議決や承認を得て連携して実行するというかたちで運営されている。2021（令和3）年度の主な活動の計画を示すと表1の通りである。以下では、これらのうち、特に文化祭の概要について報告し、そこに先述した特別活動の理念がいかなるかたちで具現化しているのかについて論じたい。

2. 文化祭の企画と運営

2021（令和3）年度は、8月中旬から新型コロナウイルスの感染者数が拡大傾向にあったため、東濃実業高校では、夏休みを延長するという異例の措置がとられた。これを受け、例年、夏休み明けに開催されてきた文化祭も、10月8日に延期された。

企画と運営を指揮する前期執行部の任期は9月30日までだったため、最後の大事な仕事であるはずの文化祭が任期外に開催されるという事態となった。また、前年度は文化祭自体が中止となったため、引継や経験の不足も否めなかった。さらに、感染症対策のために様々な配慮が必要とされたこともあり、従来とは全く異なるかたちでの運営を迫られることにもなった。

このような逆境にはあったものの、執行部のメンバーは、「今までに縛られず、新しいことに取り組めるチャンスだ」と発想を転換し、前向きに取り組んだ。そして、全校生徒に対して9月初旬に実施したアンケートの結果から、彼らが本当に求めていることや望んでいることを把握し、「皆が我慢を強いられている時期だからこそ、可能な限り、要求や希望を叶えたい」という思いで一致団結した。

その結果として、「クラス対抗全校クイズ大会」と応援グッズの制作、3年生による映像作品の制作と発表、「未成年の主張」と名づけられた企画などに取り組むこととなった。以下、これらの概要について順に説明しておきたい。

最初に、「クラス対抗全校クイズ大会」は、過密を避けるために3学級ごとに出場者を会場に集め、オンライン・ミーティング・

表 1：2021 年度の主な生徒会活動の計画

4 月	5 月	6 月	7 月
①対面式・部活動紹介 ②前期ホームルーム 役員選出 ③一斉常任委員会・生徒議会 ④部顧問会議・部活動登録	①体育委員会 ②生徒総会 ③部長会議	①球技大会 ②生徒議会 ③選挙管理委員会 ④伝達表彰・壮行会	①文化委員会 ②伝達表彰・壮行会 ③生徒会後期役員立 会演説会 ④選挙
8 月	9 月	10 月	11 月
①文化委員会 ②文化祭準備 ③伝達表彰	①文化祭 ②生徒議会 ③伝達表彰・壮行会	①体育祭 ②後期生徒会役員認 証式 ③生徒議会 ④後期ホームルーム 役員選出 ⑤一斉常任委員会 ⑥伝達・表彰	①生徒議会 ②伝達表彰・壮行会
12 月	1 月	2 月	3 月
①生徒議会 ②伝達表彰・壮行会	①部長会議	①卒業生を送る ②選挙管理委員会 ③次年度前期生徒会 役員 ④立会演説会・選挙 ⑤生徒議会	①次年度前期生徒会 役員 ②認証式 ③伝達表彰・壮行会

システムによって会場と全学級とを繋いで
トーナメント方式で開催された（図 2）。

前年度中に全ての教室にホワイトボード
とプロジェクタの設置が完了していたこと、
また、教員集団も生徒たちの思いを汲んで
結束して助言や支援に尽力したことが、こ
の大会を実現させるうえで不可欠の前提と
なった。これらの条件が揃ったことで、空
き教室を会場として、全学級に会場の様子

を配信することが可能となったのである。

なお、クイズの作問作業においても教員
集団が全面的に協力した。解答後に出題者
の教員を発表したことで、生徒たちとそれ
ぞれの教員とのその後のコミュニケーションが活性化するきっかけにもなった。

クイズ大会に向け、各学級を代表して出
場する生徒を応援するために、グッズ制作
も進められた。これは、従来の文化祭にお



図 2：「クラス対抗全校クイズ大会」の様子



図 3：学級による応援の様子

いて行われてきた生徒たちによる制作と展示に代わるものである。大会当日には制作したグッズを用いた応援の様子が全校に向けて配信された。いずれも各学級の特色や雰囲気をよく反映しており、一見すると普通のうちわでも、並べ替えるとメッセージが浮かび上がったり、光を放ったりと随所に工夫が施されていた（図 3）。

次に、映像作品の制作と発表について述べよう。これは、従来の文化祭において3年生が取り組んできた演劇に代わるものとして企画された。全校生徒が一堂に会して上映会を行うことは困難であったため、上述したクイズ大会と同様、オンラインで各学級に配信することとなった。その際、情報機器の準備や情報通信技術の設定などの場面で、それらを日頃から使い慣れているビジネス科やビジネス情報科の生徒たち⁴⁾が大きな役割を果たすことにもなった(図 4)。

さらに、「未成年の主張」と名づけられた企画について見ておきたい。この企画では、有志の生徒たちが二つの校舎の間に架かっている渡り廊下の3階に立ち、普段、なかなか伝えることのできない両親や教員への感謝や友人への謝罪、将来の目標などについて大きな声で主張を展開した(図 5)。



図 4：3年生に依る映像の制作と発表



図 5：「未成年の主張」の様子

そして、渡り廊下に面する中庭に集合した他の生徒たちや教員集団からは、全ての主張に対して温かい拍手や歓声が送られた。両側に校舎が聳える中庭は、生徒たちの声がよく響くため、辺りは野外劇場のような雰囲気に包まれ、参加者全員に感動的

な印象を与えたり、気持ちを盛り上げたりするのにも効果的な場所であった。このことも手伝ってか、ある生徒から感謝の気持ちを伝えられたことで、涙を流す教員の姿も見られたのである。

おわりに

本稿では、東濃実業高校における生徒会の組織体制と主な活動について概観したうえで、生徒会執行部が中心となって開催した文化祭の企画と運営の内実について報告してきた。これまで見てきたことから明らかのように、2021（令和3）年度の、いわゆる「コロナ禍」のなかで企画された文化祭には、その実現にこぎつけるまでの過程において、特別活動の理念が具現化されていたといえよう。

すなわち、感染症の拡大を防止するために様々な制約を受けるなかで、全校生徒を対象とするアンケートを通じて自分たちの要求や希望を明らかにしたうえで、文化祭の実現に向けて生徒たちが知っていることやできることを出し合い、協力し合って山積する諸問題を解決していったこと、また、対面して会話することさえ憚られる状況下にあっても、素直な心情や気持ちを表明することができ、それらを温かく受け容れてもらえる機会を提供することを通じて、誰もが安心して生きられる時空間を学校のなかに創りあげていったこと、これらは、まさに特別活動が目指す平和で民主的な社会の形成者を育成することに寄与すると考えられるのである。

今日、学校教育に携わる教員にとって、逆境に置かれても学校生活をより良いもの

にしようとする生徒たちの意欲を尊重し、支援することが、彼らを、予測困難な未来社会において他者と協同してより良い集団や社会の形成者として育てるうえで何よりも大切なことであるといえよう。

〔註〕

- 1) 文部科学省編『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』文部科学省、2018年7月、70-71頁。
- 2) 「岐阜県立東濃実業高等学校 全日制課程 スクール・ポリシー」（<https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/tojitsu-chs/guide/school-policy/>、2022年12月14日最終閲覧）
- 3) 「学校概要」（<https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/tojitsu-chs/guide/gaiyou/>、2022年12月14日最終閲覧）
- 4) 現在、東濃実業高校にはビジネス科・ビジネス情報科・生活デザイン科の三つの学科が設置されている。同校の設置課程やホームルーム編制、教員数については、さしあたり拙稿「岐阜県立東濃実業高等学校における総合的な探究の時間の意義－課題研究における商品開発と学習成果発表会を事例として－」（『朝日大学教職課程センター研究報告』第25号、朝日大学教職課程センター、2023年3月）を参照されたい。